陽

三年

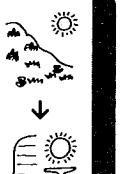
画数 12

筆順 阝 阝 阝 阝 阝 陽 陽 陽 陽 陽 陽 陽

オン ヨウ

クン

成り立ち



日がそら高く上って、日光がふりそそぐことをあらわした〝昜〟と、がけの形をあらわした〝阝〟とを組み合わせた字で「日あたりのよい〝南むきのがけ〟をあらわした字です。「山の南がわ」や〝日なた〟のことをいいます。岡山県や広島県、中国山みゃくの南がわの地方を〝山陽地方〟というのはこのためです。

日の光のことを〝陽光〟というところから、日そのものをいうようになり、〝太陽〟ということばがあります。

（山のきたがわを〝陰〟といいます。中国山みゃくの北がわにある鳥取県や島根県地方を〝山陰地方〟といいます。陰は〝日かげ〟といういみにもつかわれます。）

使い方

▽太陽と北風が、旅人の外とうをぬがす競争をしました。はじめに北風がビュービューと強く吹いて、旅人の外とうをぬがそうとしました。しかし、強く吹けば吹くほど旅人は外とうをしっかり体にまきつけるだけでした。次に太陽が、ぽかぽかと、旅人を照らしました。すると、旅人は暑くなって外とうを脱ぎました。

▽さんさんと降りそそぐ陽光の中を、白いかもめが沖の方にさあっと飛んで行きました。

熟語例

▽落陽（沈んで行く太陽。「落陽が、あたりの空を真っ赤にそめて、それは美しい景色でした」などというふうに、つかいます。）

▽陽報（目に見える、良い報い。「陰徳あれば陽報あり」と言います。人の目につかないところで、良い行いをしていれば、必ず良い報いがある、といういみです。）

▽陽動作戦（相手をだますために、表面だけの、目立った行動を取るけいりゃく。「陽動作戦で敵の目をひきつけておいて、そのすきに攻撃しよう」などというふうに、つかいます。）

様

三年

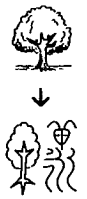
画数 14

筆順 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木

オン ヨウ

クン さま

成り立ち



羊（ひつじ）と永とを組み合わせた〝羕〟と、〝木〟とを組み合わせて作った字です。

〝羕〟という名前の木（わが国では〝とちの木〟といいます。）をあらわした字です。とちの木はくりの木と形がよくにているところから、〝様〟の字は「形がよくにている」といういみにつかわれるようになり、また、「形（すがた）」といういみにつかわれるようになりました。

〝同様〟ということばは、「同じようだ」といういみにつかいますが、もとは「〝様（とちの木）〟と同じだ」といういみのことばだったのです。

また、〝ありさま〟といういみのつかい方から、人の名の下につける敬称の〝さま〟につかわれます。

使い方

▽少しは様子がかわったかと思いましたが、いつもとまったく同様で、少しもかわったところが見えませんでした。

▽様式には多種多様なものがありますが、気に入ったものはいくらもありません。

熟語例

▽様子（子は〝椅子〟や〝帽子〟の子で、とくにいみのない字。〝有様〟〝かたち〟〝すがた〟）

▽同様（「同じ様子」。「同じ様」。すがたや様子がよくにていること。）

▽様式（国やじだいによって見られる一つのきまった形式。〔型・方法〕）

▽多様（多くの様式〔型〕。いろいろな様子）

▽模様（きものなどにかざりとしてえがかれた図がらのこと。模（6年 1002）は〝まねる〟いみ。まねたように同じ図がらがつづいているので「まねした形」といういみで〝模様〟といいました。）

▽一様（一は〝同一〟のいみで〝同様〟と同じいみのことばです。）